

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	加古川の“ぐうっと” (GOOD) な魅力を届けたい ～子育て世代に選ばれるまちを目指して～	加古川市
アイデア名 (注2) (公開)	加古川市は“住みやすいまち”であることを「みんなで」PR する		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	Code for Harima		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	6名		
代表者情報	氏名 (公開)	萬野 一道	
メンバー情報		島津 明香、広岡 磨璃、福田 宏司	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽竊があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除きCOG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいても結構です。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をする社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

加古川市は”住みやすいまち”であることが内外に PR できていない

<解決アイデアの内容>

### 行政と民間や市民・CivicTech が連携し、ICT を使って「住みやすさ」をアピールしよう

1. 行政は、持っているデータを可能な限り行政内部で共有し、施策に活用する。公開して問題がないデータは、オープンデータとして公開する。
2. 行政と民間企業や市民、CivicTech など様々な立場で様々な媒体を使い、様々な人がそれぞれ感じる加古川市の魅力を発信する
3. 様々な「加古川の魅力」に関するデータをミックスするプラットフォームを活用し、それぞれの取り組みが相乗効果を生み出すよう調整を図る

#### 3 つのプラットフォーム

- (1) 官民が連携する話し合いのプラットフォーム
- (2) 魅力に関する情報をとりまとめるプラットフォーム
- (3) 市民や市外に向かって情報を発信するプラットフォーム

# 住みやすいまち”トカイナカ加古川”を、 みんなでぐうっとPR！

行政と民間や市民・CivicTechが連携し、ICTを使って魅力をアピールする

意見やデータをミックスする  
プラットフォーム

様々な人が  
市の魅力を発信



保有データを  
可能な限り  
オープンデータ化



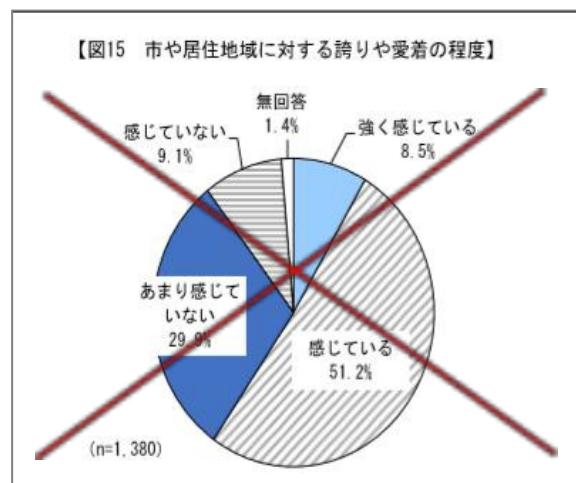
## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

### 市民の約半数は、加古川市に愛着を持っている！

市民意識調査によると・・・

- ・「市や居住地に対するほこりや愛着の程度」については、「強く感じている、感じている」を合わせると 59.7%で、次いで、「あまり感じていない、感じていない」が 39.0%
- ・性別で見ると、男女で大きな差は見られない。



※データは公開されているが、オープンデータではないため、許可のない転載はライセンス違反となる

転入・転出者アンケート（加古川市実施、期間：平成 30 年 3 月～5 月）によると

- ・加古川市の魅力
  - 自然環境・住みやすさ
- ・加古川市にあればいいと思うもの
  - 交通の便・道路の充実、商業施設

※データは公開されておらず、Code for Harima メンバーが参加した加古川市主催の会議資料より

### 加古川市も、かつてやっていたシティプロモーション「LOOK ! KAKOGAWA」

- ・ LOOK ! KAKOGAWA さがそうまちの いいところ  
[http://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/kakogawas\\_hinoseisakuzaisei/sousei/1475643790040.html](http://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/kakogawas_hinoseisakuzaisei/sousei/1475643790040.html)

ここで出た魅力を、市は育て続けている？

### たくさんの民間情報発信に関する方たちが、独自取材した魅力を発信している！

- ・ 地域情報サイト元暮らしをちょっぴり楽しくするようなオリジナル情報「まいぶれ加古川」  
<https://kakogawa.mycl.net/>
- ・ 兵庫県はりまエリアの“楽しい”をチョイスする地域情報サイト TANOSU [タノス]  
<https://tanosu.com/>
- ・ 播磨の魅力を発信するメディア「palette」  
<https://www.palette.fun/>

### 他の自治体での官民連携、横展開しない手はない！？

- ・ 日本全国の公園の魅力を発信する WEB メディア（神奈川県のパークフルと連携）  
<https://parkful.net/>  
→加古川市の公園データと連携できるんじゃない？
- ・ ためまっぷ  
<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2018/04/20180426041901.html>  
→加古川市もイベントを PR したらどうかな？

### まずは、データを共有させてください

岡田市長の所信表明にもあります

[http://www.city.kakogawa.lg.jp/shisei\\_joho/shichonopeji/1412732827663.html](http://www.city.kakogawa.lg.jp/shisei_joho/shichonopeji/1412732827663.html)

1 つ目は、「市政情報をオープン」にすることです。

言うまでもなく、まちづくりの主役はそこに住む一人ひとりの市民の皆さまです。「私たちのまちのことは自分たちで決める。」そのためには、市民の誰もがまちのことを

分  
詳

よく知ることができる環境づくりが何よりも大切です。

そこで、まずは市政に関する徹底的な情報公開を推し進めます。

### 自治体×民間事業者の対話＝可能性は∞（無限大）

データを共有して、対話すれば、行政だけで頑張らなくてもいいかもしれない

みんなの住む町は、みんなのまち

みんなが働きたくて、住み続けたいくなるまちへ

もっと先には、官民協働も進化するかも？

- ・ 兵庫県神戸市の例  
<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2018/04/20180426041901.html>
- ・ 長野県塩尻市の例  
<http://michikara.com/event/>

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

### 3 つのプラットフォームの実現について

まずは、お金をかけずにスモールスタート  
一緒に話をするところから始めませんか？

### 官民が連携する話し合いのプラットフォーム

- ・ 市民団体や行政職員、ローカルメディアの運営者など、様々な情報発信に携わる方が意見交換を行う「場」を設ける。行政職員には、国の機関や兵庫県も含むことが望ましい。  
⇒加古川市には場所の提供をお願いしたい

### 魅力に関する情報をみんなで創って「とりまとめる」プラットフォーム

- ・ 市民や民間事業者が作成した情報は、加古川市情報政策課が保有する、データプラットフォームや、オープンデータカタログサイト、G 空間情報センター、LinkData 等の既存のプラットフォームを活用し、収集した後、差支えのないものはオープンデータとして開放し、循環して活用されるようにする。
- ・ Code for は、口頭で伝承されていないような、情報のデータ化などを支援し、プラットフォームと市民をつなぐ役割を果たす。

10 / 10

### 市民や市外に向かって情報を発信するプラットフォーム

- ・ 行政は、既に持つ PR 媒体、HP やかこがわアプリ・子育てアプリ、SNS を活用し、情報の発信を行う。  
→取り組みの発信にとどめて、実際の情報発信は、全部市民に任せるのもアリかも？
- ・ 市民や民間事業者、CivicTech は、開放された情報に独自の情報を付加するなど、自らが持つノウハウ等を生かし、情報発信を行う。